



保育所待機児童の 解消を目指して 待機児童ゼロ 作戦を展開 定員を1,000人拡大します

区は、これまで全国でも例のない積極的な待機児童対策に取り組んできました。保育所等の定員について、都内最大の定員増を実施し、平成27年度までの3年間で2,600人増やしました。さらに、今年4月に練馬区独自の幼保一元化施設「練馬こども園」を開設し、28年度までの5年間で4,600人分の定員拡大を行ってきました。

今回、待機児童の集中する0~2歳児を中心とした待機児童ゼロ作戦を実施し、来年4月の待機児童ゼロを目指します。ここでは、その概要を紹介します。

問合せ

保育施設の新規整備について……保育計画調整課整備計画担当係
☎5984-4687
既存保育施設の有効活用について…保育課管理係☎5984-5839

待機児童数と定員枠の推移



3つの方策で 待機児童を解消します

新規施設の整備をはじめ、3つの方策で1,000人規模の定員枠を拡大します。このうち800人は、待機児童が集中する0~2歳児(うち1歳児500人)を対象とする予定です。

①保育施設の新規整備

700人

0~2歳児を中心に、私立保育所4カ所、小規模保育13カ所の整備

②既存施設の定員枠拡大

200人

区立保育所等の1・2歳児の定員を拡大、保育水準は維持

③1歳児1年保育の導入

100人

1歳児を対象に区・私立保育所、区立幼稚園の遊戯室などを転用し、新たに実施

※一部の取り組みは平成28年中に実施します。第1弾として小規模保育の1歳児を募集します(詳しくは、2面参照)。

3歳児以降は 「練馬こども園」でも受け入れ

「練馬こども園」は

- ・区独自の制度として、国や都の制度とは別に、私立幼稚園の協力を得て創設
 - ・通年(夏・冬・春休みも含む)で11時間保育を実施
 - ・3歳児以降の受け皿として、今年4月から13園で926人の定員を確保。
- 待機児童の減少に大きく貢献、今後も認定園を一層拡大

▶問合せ:こども施策企画課☎5984-1522

練馬区長 前川 輝男

練馬区は当面、自力で最大の努力を続けますが、区民の皆様とともに、国に政策転換を強く求めたいと考えています。

しかし本来、保育所待機児童は、国が、育児休業や児童手当など総合的な政策で対応すべき課題です。幼保一元化の実現も不可欠です。区や市が保育所整備の競争を強いられる現状は理不尽と言わざるを得ません。

そこで今回、待機児童ゼロ作戦を展開して、定員を1,000人増やし、確実に待機児童ゼロを実現することとしました。

166人残りました。

区長就任後、子育ての支援を重要政策のトップに掲げ、この3年間で、認可保育所等の定員を、都内最大の2,600人増やしました。この4月には、区独自の幼保一元化施設、幼稚園を活用した「練馬こども園」を開設し、900人以上の定員枠を設定しました。こうした都内最大の努力にも関わらず、4月に待機児童が

私一人息子は、区内の保育施設でお世話になりました。産休明けにはバスで認可外の保育室へ通い、翌年、区の保育所へ入りました。朝は私が送ることも多く、別れ際に泣かれて切ない思いをしたものです。働く者にとっての保育施設の有難さは骨身に沁みています。



5階の窓から